

いも類 3 品種の紹介

その2 —
(9号に続く)

(昭和61年農林水産省育成農作物新品種)

農林水産省農林水産技術会議事務局

種 類 名	ばれいしょ
品 種 名	メイホウ
登 録 番 号	ばれいしょ農林28号
登録年月日	昭和61年 6 月 6 日
旧 系 統 名	西海16号
育 成 場 所	長崎県総合農林試験場 愛野馬鈴薯支場

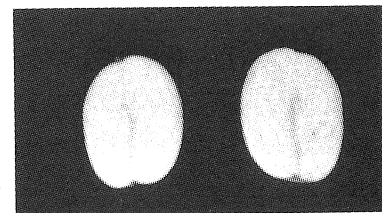
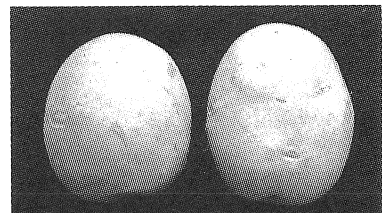
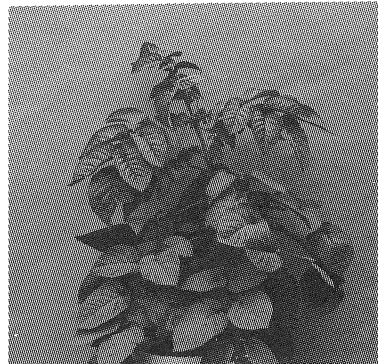
来歴の概要 昭和46年、長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場（農林水産省育種指定試験地）において、青枯病に抵抗性があり、良質・多収の品種を育成すること为目标に、青枯病に強くて品質が良い「チデワ」を母とし、春作・秋作ともに多収な「長系80号（T 6219—45×タチバナ）」を父として人工交配を行い、翌47年春作から実生選抜試験を行った。以後、系統選抜試験、生産力検定予備試験、生産力検定試験、特性検定試験などで選抜を重ね、昭和50年秋作に「長系83号」の系統番号を付し、昭和57年秋作には「西海16号」の系統名を付して生産力検定試験や地域適応性試験などに供してきた。

特性の概要 茎長は「デジマ」より短く、「ニシユタカ」並の短茎である。茎数は、春作では「デジマ」並で少く、秋作では「デジマ」並で多い。花の数は「デジマ」より多く、「農林1号」並でやや多く、花色は紫で他の品種と区別し易い。いもの形は「デジマ」よりやや長いだ円体で、皮色は「デジマ」より黄色がやや濃い淡黄ないし黄白である。目は

「デジマ」並で“浅”，外觀は「デジマ」並で“良”である。食味は「ニシユタカ」よりまさり、「デジマ」並で“良”である。

休眠期間は、春作産の秋作用種いもでは「ニシユタカ」より短く、「デジマ」よりやや長いが“短”に属し、秋作産の春作用種いもでは「デジマ」よりやや長いが“短”に属する。早晩性は春作，秋作，ともに「デジマ」及び「ニシユタカ」よりやや早く“中”に属する。

青枯病抵抗性は「デジマ」及び「ニシユタカ」より強く、「農林1号」並で“強”である。そうか病抵抗性は「ニシユタカ」より強く、「デジマ」ないしやや強い“やや弱”である。



▲メイホウ

試験成績

作 期	品 種 名	茎	早 晩	花 色	休 眠 の 長 短	い も の 形	皮 色	目 の 深 浅	外 観 の 良 否	水 煮 の 肉 色	食 味 の 良 否	耐 病 性			上 い も 重 (kg/a)	同 左 標 準 比 (%)	平 均 一 個 重 (g)	で ん 粉 価 (%)
												耐 青 枯 病	耐 そう か 病	耐 粉 状 そう か 病				
春 作	メイホウワ	やや短	中	紫	短	短だ円	淡黄	浅	良	淡黄	良	強	中	やや強	303	97	113	12.2
	デジマ	やや長	やや晩	白	短	短だ円	淡黄	浅	良	淡黄	良	弱	弱	やや強	311	100	116	10.9
	ニシユタカ	やや短	やや晩	白	やや短	扁球	淡黄褐	浅	やや良	淡黄	中	弱	弱	やや強	375	121	112	11.8
	農林1号	やや長	やや晩	白	やや短	扁球	黄褐	やや深	中	白	良	強	中	やや強	269	86	95	13.8
秋 作	メイホウ	短	中	紫	短	短だ円	黄白	浅	良	黄白	良	強	やや弱	—	324	86	107	13.9
	デジマ	中	やや晩	白	短	扁球	黄白	浅	良	黄白	良	弱	弱	—	375	100	125	13.7
	ニシユタカ	短	やや晩	白	短	扁球	淡黄	浅	やや良	淡黄	やや良	弱	弱	—	380	101	127	12.9
	農林1号	中	中	白	やや短	扁球	黄褐	やや深	中	白	良	強	やや弱	—	312	83	111	14.9

(注) 1. 調査地 育成地(長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場)。
2. 調査年次 春作は昭和58～60年、秋作は昭和57～59年。

疫病抵抗性は「デジマ」並で“やや弱”，乾腐病抵抗性は「デジマ」よりやや強く“中”である。軟腐病抵抗性及び粉状そうか病抵抗性は「ニシユタカ」並で“やや強”である。葉巻病及びPVYによるモザイク病抵抗性は「デジマ」より弱く“弱”であるが、両者の病

徴は明白であるので罹病株抜取りは容易である。裂開及び二次生長による障害は「デジマ」より少く、肌あれによる障害は「ニシユタカ」や「デジマ」より少い。収量は春作では「デジマ」と同等ないしやや少いが“多”に属し、秋作では「デジマ」よりやや少い。

適地等 長崎県全域に適するが、特に主産地である島原半島の連作地帯に適する。ばれいしょの主産地では1年に2回栽培する連作が長年にわたって続けられているため、青枯病やそうか病などによる品質劣化が大きい問題になり、良質・耐病性品種の必要性が高い。

本品種は、収量は「デジマ」などよりやや少ないが、外観・食味ともに良く、青枯病に強い特性を持っている。また、そうか病、軟腐病、肌あれなどの障害も比較的少ない。これらのことから、連作障害が多い地帯における良質・耐病性品種として、食味が劣る「タチバナ」、青枯病に弱い「デジマ」、そうか病及び青枯病に弱い「ニシュタカ」の一部に替り普及するものと見込まれる。長崎県が奨励品種に採用する予定である。

栽培上の注意

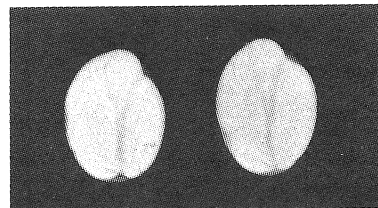
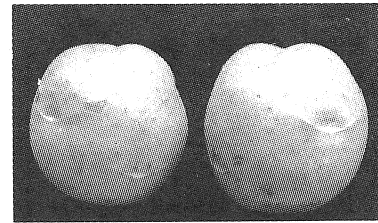
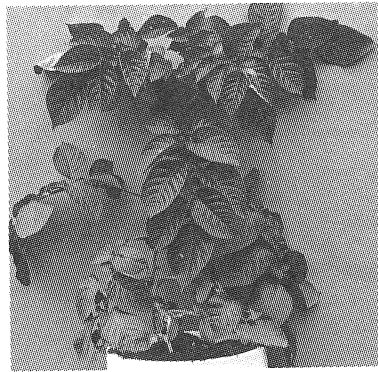
1. 茎長が短く、茎葉の繁茂が比較的少ないことから、やせ地や秋作の遅植えでは収量が少くなり易いので、十分な肥培管理が必要である。
2. 春作マルチ栽培では出芽期がやや遅いので、十分な催芽処理を図る必要がある。また、落葉期がやや早いと遅掘りになると地温が高くなりすぎるので、適期収穫が重要

である。

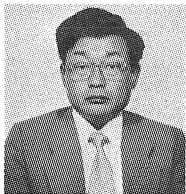
3. 青枯病には強いが多発圃場ではかなりの被害を受ける。またそうか病には、

「ニシュタカ」よりは強いが、「デジマ」程度の被害を受けることが多いので、防除対策が必要である。

▼デジマ



新品種名の意味 有明海、雲仙、多良岳の両峰にちなむ（漢字又はローマ字で表示する必要がある場合には「明峰」、「Meihou」を用いる）。



原料用甘しょ新品種「シロサツマ」

農業研究センター 甘しょ育種研究室 主任研究官 加藤 眞次郎

1. はじめに

大正初頭から昭和40年頃までには、30～40万haあった甘しょの栽培面積が、昭和60年に

は、7万haと往時の20%足らずとなった。また、その消費動向も、昭和30年代ではでん粉等原料用50%、飼料用25%、市場販売用10%